

ウエイクボード世界選手権2018

池田ダム湖で開催が決定



【写真上】プロ選手が狂巻のパフォーマンスを繰り広げたアジアウエイクボード選手権（2016年9月）
【写真下】協定書に署名を終え記念撮影に応じる飯泉知事と世界ウエイク協会スターリング会長、アジアウエイクボード協会薄田会長、黒川市長

■アジア初の開催が決定

ウエイクボード世界選手権2018が、三好市池田ダム湖で開催することが決定し、開催協定締結式が2月24日、徳島県庁で行われました。

締結式には、世界ウエイク協会シャノン・スターリング会長とアジアウエイクボード協会の薄田克彦会長、飯泉知事と黒川市長が出席し、協定書に署名しました。

三好市役所では、記念セレモニーが行われ、関係者がくす玉を割って世界大会の開催決定を祝いました。黒川市長は「今年10月のラフティングに加え、来年のウエイクボードと2つの世界選手権を開くことになり、世界に冠たるウオータースポーツのまちとして三好市を世界にアピールしていきたい」とあいさつ。その後、山城町の女性グループ「やましろAKB」がダンスを披露し、セレモニーに花を添えました。

大会は、30回目の記念大会でアジア初の開催となり、来年8月30日から9月2日までの4日間にわたり、約30か国のプロ選手ら200人が参加する予定です。

■ウエイクボードってどんなスポーツ

ウエイクボードは、モーターボートにロープで引っ張ってもらいながら、ボードに乗って水面を滑り、ジャンプの高さや技の難易度などを競うスポーツです。世界で約3000万人、国内で約82万人の愛好家がウエイクボードに親しんでおり、2020年の東京オリンピックの正式競技にノミネートされるなど、今後、より一層世界に普及するウオータースポーツとして期待されており、夏のスノーボードとされています。

■ウオータースポーツのまち三好市へ

今回、水質の良さや穏やかな水面とともにアジア大会開催の実績も高く評価され、アジア初のウエイクボード世界選手権開催が決定しました。今後、世界ウエイク協会・アジアウエイクボード協会・徳島県・三好市が中心となり、組織委員会を立ち上げ、大会の成功に向けて準備を進めていきます。



30年目という節目の世界大会
三好市がウオータースポーツの
聖地となることを期待

世界ウエイク協会会長
シャノン・スターリングさん

30年目という節目の大会を三好市で開催できることにすごくわくわくしています。アジアウエイクボード協会の薄田さんにこの場所を紹介していただいたこと、黒川市長にこの機会を与えていただいたことに本当に感謝しています。場所を決めるにあたってさまざまな要因がありました。ここに素晴らしい場所があったのはもちろん承知していましたが、関係してくださった方々や三好市の方々のサポートの姿勢がとても丁寧でそれが決め手となりました。人々の温かさや文化の深みがこの地域の魅力だと感じています。今後、ウオータースポーツの聖地になっていくであろう三好市の発展に貢献していきたいと思っています。ここまで助けていただいたすべての方に感謝するとともに、大会成功に向け、これからも皆さまに支えていってほしいと思っています。



このような素晴らしい場所が
三好市にあることを
世界中の方に知ってもらいたい
アジアウエイクボード協会会長
薄田 克彦さん

このような素晴らしい大会が三好市でできるようになり本当に幸せに思っています。私は京都で生まれ、29歳でウエイクボードに出会い足掛け30年間人生をかけてこのスポーツの普及に取り組んできました。プロのライダーから池田湖を紹介され、日本にこんな素晴らしい場所があるということを知り、昨年皆さまのおかげでアジア大会を開催することができました。そして、この世界大会を契機にまちを元気にしたいという思いが込み上げ、4月から三好市に引っ越し、三好市民となり皆さまとこの素晴らしい水資源を生かしたまちおこしに取り組みたいです。市民の方や行政の方にお力を借りながら、このまちに夢を、子どもたちに希望を与えて、三好市の発展に寄与していきたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。



【写真上】敷之上橋から望む池田ダム湖。水質の良さと穏やかな湖面が素晴らしいと評価された
【写真中左】協定書に署名する世界ウエイク協会スターリング会長とアジアウエイクボード協会薄田会長
【写真中右】協定書に署名する飯泉知事と黒川市長
【写真下】山城町の女性グループ「やましろAKB」が記念セレモニーでダンスを披露し、記念式典に花を添えた